

令和元年度 鳴門市学校評価書

鳴門市第一中学校

I 経営の重点に関すること

学校教育目標

A;大変よい, Bまあまあよい, C少し課題を感じる, D;課題である

| 項目 | 内容 | 中間評価 | 年度末評価 | コメント |
|--------------------------------|--|------|-------|--|
| 重点目標(重点的に求める価値目標) | 1. 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成 2. 自主性・創造性に富み、人権感覚豊かな生徒の育成。 | | B | |
| 具体的な取組 (組織として価値観を揃えて取り組むこと) | すべての教員が生徒の良い面や良い言動を積極的に見つけ、情報を共有(日常的な情報交換)し、ボイスシャワー(賞賛・承認)を継続して行い、生徒の自己有用感を育てる。 | | B | |
| | 「チーム鳴一」として、全教職員で取り組む生徒指導を実践する。 誰もが同僚教師の授業を参観できる公開授業週間(=学び合いウィーク)を実施する。参観した教員は授業の良かった点や参考になった声かけ、生徒の変容(発見)など良情報を用紙に記入し授業を行った教師に渡し、情報交換を行い、授業改善を図る。 | | A | 組織的に早期発見早期対応の取組を87.5%の教員がしていると回答。 |
| 評価指標 (具体的な求める子どもの姿・行動目標) | 自己有用感を感じる生徒を75%以上にする。 | | C | |
| | 授業中人の話がしっかり聴ける生徒85%以上にする。 | | B | 生徒の84.4%が集中して聴けていると回答。授業からも落ち着いた様子が見られる。 |
| | 授業をわかりやすく指導してくれたと感じる生徒を85%以上にする。 | | A | 生徒の89.2%が集中して聴けていると回答。授業からも落ち着いた様子が見られる。 |

| | |
|-------|--|
| スローガン | 自己有用感を育てる教育の実践 ～互いのよさを認め合い、夢や目標に挑戦する生徒の育成～ |
|-------|--|

| | |
|--------------|--|
| 学校の自己評価・改善方針 | ☆プラスの評価: 教職員が重点目標を共通理解し、実現に向けて意識して教育活動に取り組めた。・きめ細やかな指導により、落ち着いて授業を受けることができた。 ★マイナスの評価: 学び合いウィーク(教職員相互の授業参観)の実施効果は得られているが、実施率の向上が課題である。・地域の教育力を活用した教育活動が少ない。・知識や技能を活用する力が育っていない。 ☆改善方針: 業務改善により教職員の時間の確保を進めることで授業改善や指導力の向上を図る。「総合的な学習の時間」を活用し、新たな課題に対しての教科横断的かつ効果的な取組を推進する。 |
|--------------|--|

| | |
|---------|--|
| 学校関係者評価 | ☆プラスの評価: 防災学習に力を入れ、様々な工夫をし取り組んでいることで、生徒の防災意識の向上につながっている。今後も続けてほしい。・バントタッチ作戦は効果が出ているので今後も続けてほしい。 ★マイナスの評価: 不登校生徒への対応をさらに充実していくこと。・様々な家庭環境を理解し子どもの現状を見据え関係機関等の連携し対応をしていくことも大切である。 |
|---------|--|

II 学校アセスメント

A;大変よい(90~100%), Bまあまあよい(89~80%), C少し課題を感じる(79~70%), D;課題である(69~0%)

| 大項目 | 中項目 | 学校の取り組み | 中間評価 | 年度末評価 | 子ども調査 | 中間評価 | 年度末評価 | 保護者調査 | 年度末評価 | A, Dについてはコメントを付す | |
|-----------|----------------|----------------------|------------------|-------|-----------------------------|------|-------|-------------------------------|-------|-----------------------------------|--|
| 1 学習指導の充実 | 学習意欲の向上 | 魅力的な授業展開の工夫 | | B | 1 先生はいつも分かりやすく教えてくれる | | A | 1 子どもは、学校の勉強に意欲的に取り組んでいる | B | 生徒理解に努め情報交換を密にしている。 | |
| | 基礎基本の定着 | 学力テスト・ステップアップテスト | | B | 2 漢字や計算の力がついてきている | | B | 2 子どもの学力状況はよく分かっている | A | 保護者の91.8%がよく分かっていると回答。 | |
| | | 単元末テスト・中間テストなど | | B | 3 成績に満足している | | B | 3 学校は、学力向上に向けて熱心に取り組んでいる | B | | |
| | | 思考・判断力の向上 | 学力テスト・ステップアップテスト | | B | | | | | | |
| | 単元末テスト・中間テストなど | | | B | | | | | | | |
| | 体力の向上 | 体力テストの結果など | | B | | | | | | | |
| | | 体力づくりにつながる活動の実践 | | A | 4 進んで運動し、体力づくりをしている | | C | 4 学校は、子どもの体力づくりに取り組み、効果を上げている | A | 体育の授業において基礎体力づくりの内容を導入段階で取り入れている。 | |
| | 学習規律の定着 | 学習の仕方のルール作り | | A | 5 授業中に人の話を集中して聞いている | | B | 5 学校は、子どもの学習規律の定着に熱心に取り組んでいる | C | 学年集会等で、授業ルールを確認し、足並み揃えた指導を続けられた。 | |
| | | 授業観察 | | B | 6 宿題をきちんとしている | | B | 6 子どもは家庭学習(宿題)を、きちんとしている | C | | |
| | 課題解決的な学びの充実 | 「めあて」や「まとめ」を表示した授業実践 | | A | | | | | | 常に全教員が本時の目的を示し、生徒のやる気を喚起している。 | |
| | 協働的な学びの充実 | グループ学習の実践 | | B | 7 グループで調べたり、課題を解決する学習が好きである | | D | | | 学年によってのばらつきが見られる。 | |
| | 習熟に応じた指導の充実 | 習熟度学習の実践 | | B | | | | | | | |
| | ICT等を活用した指導の充実 | ICT活用の授業の実践 | | B | 8 電子教科書などを使った授業は好きである | | B | | | 様々な教科で電子黒板を活用した授業を展開している。 | |
| | 特色ある指導 | | | B | | | | | | | |

| | 大項目 | 中項目 | 学校の取り組み | 中間 評価 | 年度末 評価 | 子ども調査 | 中間 評価 | 年度末 評価 | 保護者調査 | 年度末 評価 | A、Dについてはコメントを付す |
|----|-------------|-----------------|------------------|----------|-----------|-------|----------|-----------|-------|-----------|-----------------|
| 45 | 学校経営 の改善 | 校務分掌の組織化 | 校務の見直しや組織の改廃 | | B | | | | | | |
| 46 | | 教員の参画意識を高める | 学校経営・運営ビジョンの共通理解 | | B | | | | | | |
| 47 | | 学校事務の効率化、効果的な会議 | 情報の分類・整理の推進 | | B | | | | | | |
| 48 | | | その他自校独自の取組() | | | | | | | | |
| 49 | 教員研修 の充実 | 共通テーマにそった研修 | 校内研修の充実 | | B | | | | | | |
| 50 | | 研修会等への参加と報告 | 受講研修内容の伝達の推進 | | B | | | | | | |
| 51 | | | その他自校独自の取組() | | | | | | | | |
| 52 | | | | | | | | | | | |
| 53 | | | | | | | | | | | |
| 54 | | | | | | | | | | | |
| 55 | | | | | | | | | | | |
| 56 | | | | | | | | | | | |
| 57 | | | その他自校独自の取組() | | | | | | | | |

学校の自己評価改善方策 今年度は、出退勤タイムカードによる時間管理や「部活動運営方針」の継続的な取組を実施し、教師の休養やゆとりの確保ができるようになりつつある。生徒と向き合う時間の確保とともに、効果的な指導方法の工夫をよりいそう図っていく。いじめや不登校問題の解決が複雑・困難化している。このことについては、教職員間の共通理解を充実させていくとともに、スクールカウンセラーや関係機関との連携強化が必要である。いじめや不登校に対する指導が複雑化・困難化しつつある。スマホの利用による、家庭学習習慣や運動習慣の低下が問題となってきている。また、学習意欲や学力の差も大きくなってきている。これらの課題を解決するには、家庭との連携・協力が重要である。さらに、「特別の教科道徳の実施」「キャリアパスポートの実施」「プログラミング教育の充実」等、新たな教育課題に対する教職員の指導力を向上させる必要があり、そのための研修も計画的に実施しなければならない。個々の教師の指導力向上を組織的に行う必要がある。

学校関係者評価 ここ数年継続してきたバトンタッチ作戦やボイスシャワー(認め、褒め、励ます)などの取り組みが、チーム鳴一として一丸となって取り組む教職員集団になってきている。また、新校舎完成に伴い、教室環境や学習環境などが整備され、のびのびと生徒が意欲的に学習できるよう、学習方法の工夫改善に努めている。今後も続けてほしい。スマホやSNS等のトラブル回避のためには、安全な利用の仕方について生徒とともに保護者へ啓発が重要である。不審者対策では、自動ドアの開閉をインターホンの通知時に自動操作できないのは、非常に危機感を感じる場所である。学力向上については、数値だけを追い求めるのではなく、大校であるだけに魅力のある生き力を身につけさせてほしい。